

聞いてみました！ まちの声 ~100号記念特集編~

議会だより第100号の発行を記念し、日頃町民の皆さんが町に期待すること、町議会への思いなどを伺いました。

近所に子供が少なくなっている地域に住む者です。子供が少ないからこそ、お友達の輪を広げたいと思いますので、近くに集まって遊べるような公園や広場があればいいですね。

清宮 一代さん (喜多)



多古町は子育てに優しい町で、昨年度病児保育所が開設されました。平日の時間帯だけではなく、土日祝日やシフト勤務の場合でも対応できるようにになれば、より安心して子育てができるのではないかと思いますので、前向きに検討していただきたいです。

白鳥 圭佑さん (多古)



多古町は農業が盛んな町です。若い人がいきいきと農業ができるような政策を、県や国に対して要望して欲しいと思います。

土屋 重光さん (北中)



子供が大きくなって、進学、就職を迎えた際に不便を感じずにいられる町、自分の家族を持った時に多古町に住んで暮らしたいと思える町になるように今後も議論してほしいと思います。

八木 政徳さん (柏熊)



議会は住民の代表として、若い人達の意見・要望を集約し、町の政策に反映されることを期待します。

鈴木 金作さん (坂)



私は、今93歳です。自分で作った野菜を友達にあげて喜ばれることが生きがいで、短歌の会にも参加して楽しんでいます。お年寄りがいつまでも楽しく暮らせる多古町をこれからも続けてください。

藤井 たかさん (大高)



災害や新型コロナ、鳥インフルエンザ等、生活に不安を感じる事が多い昨今ですが、人生100年と言われる時代、長期的な視野で自然豊かな多古町の環境を守り、みんなが安心安全に暮らせるまちづくりを進めて欲しいです。

木内 建雄さん (北中)



多古町議会だよりは、議会の活動を町民の皆様幅広く知ってもらいたいとの思いで、平成8年8月に第1号が創刊されました。その後、議会だより編集委員会が工夫を重ね、この度記念すべき100号を発刊することになりました。これまで時代の変化に合わせて試行錯誤し、表紙写真をカラーにするなど、またインパクトのある見出し等、町民の皆様にご覧いただきやすくなり、またわかりやすくお伝えできるよう心がけてまいりました。町議会だよりは皆様との大切な交流の一つです。今後は多くの皆様の声が反映させながら、議会をより身近に感じていただけるよう、編集委員一同努めてまいります。



議会広報特別委員長 高坂 恭子議員

議会だより第100号記念発行に寄せて

「議会」と行政と町民のかけ橋、このテーマの基、創刊から25年、100号を重ねた議会広報。歴代の町長方と議員・議会のやりとり、多古町の存続をかけた平成の大合併の議論や町と議会の様々な局面、変革を伝え続けてきた紙面は大きな財産です。議会は町政のチェック機能を有すると言われます。議員がその役割を果たすべく努力し続けることが、議会の発展と報道する議会広報の充実に繋がると信じます。



100号発行に寄せて



創刊当初から議会だよりを携わる 石渡 悦子議員

民の皆様にお伝えする手段として取り組んだところです。当時、本町の議員定数22名、人口1万8400人余りでありましたが、現在は少子高齢化時代を迎え、1万4400人余りまで減少し、議員定数14名体制にて運営となった今、時代の流れを感じます。今後は空港機能強化による第三滑走路建設、圏央道建設によるインターネットへのアクセス向上や利便性の向上、経済効果が期待されます。現在、新型コロナウイルス感染症対策を国策として行っておりますが、本町でも感染者が発生しており、町議会にて緊急事態への対応、小中学生と共に防災無線を活用したコロナ感染対策を警鐘、町民に意識啓発を図り、大きな役割を果たしたと思います。今後共、町民と共に対話を図り、本町のより良い町づくりに尽力されること、「議会だより」が益々発展することを期待いたします。